


雪印メグミルクグループ グループ会社紹介


グループ各社でもCSRリーダーを中心にCSR活動を推進しています。

雪印種苗(株)

設立	昭和25年12月
資本金	4,643百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	赤石 真人



事業内容 種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究



人事総務部
総務課長
山崎 伸明

すべての行動規範である「雪印種苗行動基準」を従業員一人ひとりに浸透・定着させ、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)においてバランス良く活動していきます。

ハケ岳乳業(株)

設立	昭和29年1月
資本金	60百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	長野県茅野市
代表者	秋元 毅一郎



事業内容 牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業



今年、諏訪の地では御柱大祭を迎えました。当地に設立60年を経過する当社においても、地域に根差した企業として「食の安全・安心」はもとより環境保全に貢献します。

経営管理部部長
小口 穰

いばらく乳業(株)

設立	昭和34年1月
資本金	118百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	茨城県水戸市
代表者	川崎 浩



事業内容 牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売

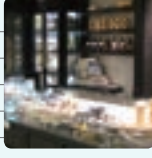


「健康・安心・安全」の価値を大切にしながら食文化の向上・発展を目指し、「いばらく」に集う人々との調和・つながりを深め社会に貢献してまいります。


製造2課長
小山 弘美

チェスコ(株)

設立	昭和32年3月
資本金	472百万円
グループ計持株比率	90.9%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	本村 直之



事業内容 ナチュラルチーズ・食料品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売

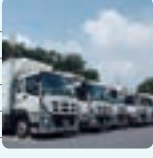


世界からの美味しいチーズをお届けし、食卓を豊かにすることが私たちチェスコの使命です。厳選したナチュラルチーズをとり揃え、全国のショップで皆様のお越しをお待ちしております。


総務部長
太田 昭彦

直販配送(株)

設立	昭和55年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都渋谷区
代表者	田邊 良一



事業内容 共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業



チルド物流36年の経験を生かし、安心品質物流で社会貢献するとともに、明るく元気な職場づくりを進めます。

CSR推進部長
忍田 行廣

(株)グレスコ

設立	昭和23年8月
資本金	38百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都北区
代表者	小林 弘明



事業内容 食品包装資材、菓子類などの仕入販売




当社は、60年余の包装資材の取扱いで培った知識やノウハウに基づいて、経済や環境へ配慮した提案を継続的にかつ誠実にこなうことで、社会に貢献していきます。


取締役
阿部 潤一

(株)エスアイシステム

設立	平成9年1月
資本金	400百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	齋藤 孝宣



事業内容 チルド・フローズンを中心としたベンダー、マーチャндаイジングと共配センター運営事業




従業員一人ひとりにCSRの理解を深めてもらうために、社内報での情報発信や研修に取り組んでいます。

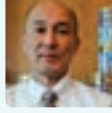
管理部長
町田 良克

雪印オーストラリア(有)

設立	平成4年12月
資本金	22百万A\$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	メルボルン(オーストラリア)
代表者	福迫 忠己



事業内容 育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入



オーストラリアから安全・安心な粉ミルクや白カビ系チーズなどの商品をアジアおよび豪州国内にお届けすることにより、社会に貢献してまいります。

管理部長
来栖 淳

みちのくミルク(株)

設立	平成8年10月
資本金	467百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	宮城県大崎市
代表者	小原 勝義



事業内容 牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売



当社では、牛乳やヨーグルト等の製造を見学することができません。また、毎年地元で開催される「政宗公まつり」や「おおさき食楽まつり」に参画し試飲活動などをしてまいります。

取締役
総務部長
庄子 慶之

三和流通産業(株)

設立	昭和29年1月
資本金	450百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹島 昭一
事業内容	日配チルド食品等の卸売事業、共配センター事業

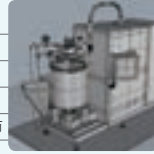


取締役
業務部長
西口 幸雄

CSR経営をベースとした事業活動により、美味しい食品をお客様にお届けして、皆様の「食べる喜び」に貢献していきます。

ニテラク機械(株)

設立	昭和29年4月
資本金	50百万円
グループ計持株比率	67.6%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	原田 勉
事業内容	食料品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス

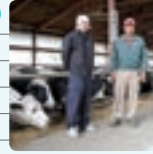


総務部長
斉藤 宏司

「酪農・乳業への貢献」を目的として、六次産業化を目指す酪農家にチーズをはじめとする乳製品の製造技術・機器を提供しているエンジニアリング会社です。

(株)ロイヤルファーム

設立	平成13年2月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	48.5%
本社所在地	青森県十和田市
代表者	寺栖 喜久男
事業内容	肉用牛の生産・販売



業務部長兼
指導部長
西井 信

子会社の直営3牧場(株)ペンケル牧場と(株)RF青森牧場と岩手牧場)と共に7,300頭の肥育牛を飼養し、「安全・安心の美味しい牛肉」となるよう目指し取り組んでいます。

雪印ピーンスターク(株)

設立	平成14年8月
資本金	500百万円
グループ計持株比率	80.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	平田 公孝
事業内容	育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能性食品などの研究開発・製造・販売

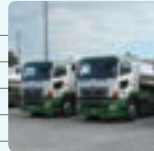


部長
玉本 裕一

60年続く母乳研究から開発された「安心して育児ができる粉ミルク」や機能性食品などの提供により、家族の健康といきいきした暮らしに役立てるよう取り組んでいます。

グリーンサービス(株)

設立	昭和55年11月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都調布市
代表者	菅原 尚則
事業内容	共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業



取締役
業務部長
佐藤 勇

酪農家から生乳の集荷、クーラーステーションへの輸送、殺菌乳の飲料メーカー工場への搬入を担い酪農家と消費者を結び懸け橋となれるよう日々、頑張っています。

(株)雪印こどもの国牧場

設立	昭和40年8月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	神奈川県横浜市
代表者	手島 隆二
事業内容	牧場運営、牛乳の製造、食堂・売店経営



総務企画部長
山口 雅也

自然に親しみ、動物たちとふれあうことができると共に、関東地区唯一の特別牛乳を味わうことが出来ます。

台湾雪印(株)

設立	平成4年12月
資本金	7百万NT\$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	台北(台湾)
代表者	小原 康嗣
事業内容	育児用粉乳、乳製品等の輸入・販売



営業部
営業企画課
柯 静如

台湾で50年、お子様の健やかな成長を願って常に安全な商品をお届けしています。小児医療の発展のための奨学金や福祉施設への寄付などの社会貢献にも努めています。

(株)雪印パーラー

設立	昭和36年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	小山内 薫
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売



管理部長
首藤 俊昭

創業以来60年、札幌市民はもとより日本全国の方々に愛されてきた雪印パーラーです。いままでも、これからも安全・安心で美味しいメニューを提供していきます。

甲南油脂(株)

設立	平成4年7月
資本金	100百万円
グループ計持株比率	51.0%
本社所在地	兵庫県神戸市
代表者	遠藤 悟
事業内容	マーガリン・チーズ等乳製品の製造販売

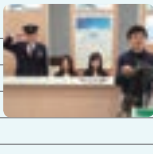


総務部長
川畑 誠一郎

マーガリン・チーズ等乳製品の製造販売会社です。業務用マーガリン・チーズを中心に製造していますが、神戸の海に面した立地であり環境負荷の削減に取り組んでいます。

(株)YBS

設立	昭和46年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	國本 温史
事業内容	ビル総合管理、警備業、建築業務、損害保険代理業、人材派遣、営業・管理・生産品質等の各種ビジネスサポート業務

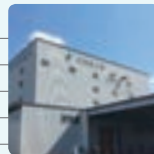


常務取締役
坂口 高司

CSRアンケートの結果を踏まえ、職場のコミュニケーションを基本として、日常業務に直結した活動を推進します。

道東飼料(株)

設立	平成13年7月
資本金	300百万円
グループ計持株比率	60.0%
本社所在地	北海道釧路市
代表者	大久保 修市
事業内容	配合飼料の製造



品質保証室
今田 裕之

常に安全・安心で高品質な養牛用飼料・代用乳を生産して畜産農家にお届けし、安心しておいしい牛乳・牛肉を生産して頂けるよう日々全社員一丸となって頑張っております。

ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比

2010年11月に発行されたCSRに関する国際規格であるISO26000「社会的責任に関する手引」に掲げられている7つの中核主題ごとに「CSR活動報告書2016」に掲載している取組み内容を整理しました。

7つの中核主題	当社取組み内容	
1. 組織統治	雪印メグミルクグループ企業理念とCSR経営	P.1
	コーポレート・ガバナンス体制	P.39
	企業倫理委員会の設置	P.40
	CSR経営に関する従業員アンケート	P.43
2. 人権	人事基本方針	P.35
	人材育成	P.36
3. 労働慣行	人材多様性の確保	P.35
	内部通報制度	P.44
4. 環境	環境方針	P.29
	環境マネジメント体制	P.29
	ISO14001 認証の継続	P.30
	内部環境監査	P.30
	CO ₂ 排出量とエネルギー使用量の削減	P.31
	廃棄物・食品廃棄物の削減とリサイクルの推進	P.31
	環境保全活動紹介	P.33
5. 公正な事業慣行	雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準	P.41
	CSRグループ活動の実施	P.42
	「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」の実施	P.42
6. 消費者課題	雪印メグミルク品質保証方針	P.17
	雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)	P.15、17
	危機管理体制(品質事故の対応)の構築	P.44
	企業倫理委員会 消費者部会	P.40
	お客様センターの設置と運営	P.17
	お客様満足向上ミーティングの開催	P.18
	お客様モニターの実施	P.18
	食育活動	P.20
酪農と乳の歴史館、工場見学の実施	P.22、48	
7. コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展	酪農生産への貢献	P.21
	地域・社会への取組み	P.37
	スポーツ振興への取組み	P.37

見学いただける工場・歴史館の連絡先

日本の酪農・乳業
に関わる史料

雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館

北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号
TEL. 011-704-2329

牛乳類・飲料・
ヨーグルト

雪印メグミルク(株)札幌工場

北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号
TEL. 011-704-2329

(受付は雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館で
行なっています。)

ナチュラル
チーズ

雪印メグミルク(株)なかしべつ工場

北海道標津郡中標津町丸山2丁目9番地
TEL. 0153-72-3281

ナチュラル
チーズ

雪印メグミルク(株)大樹工場

北海道広尾郡大樹町緑町35
TEL. 01558-6-2121

牛乳類・
デザート

みちのくミルク(株)本社工場

宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1
TEL. 0229-72-2011

プロセスチーズ・
マーガリン

雪印メグミルク(株)阿見工場

茨城県稲敷郡阿見町星の里22番地
TEL. 029-829-5236

牛乳類・飲料・
ヨーグルト

雪印メグミルク(株)野田工場

千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1
TEL. 04-7122-2246

牛乳類・飲料・
ヨーグルト

雪印メグミルク(株)海老名工場

神奈川県海老名市新田5丁目26番1号
TEL. 046-240-6300

デザート・
クリーム

雪印メグミルク(株)豊橋工場

愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79
TEL. 0533-78-3711

牛乳類・
ヨーグルト

雪印メグミルク(株)京都工場

京都府南丹市八木町美里紫野1番地
TEL. 0771-43-2150

牛乳類・飲料・
ヨーグルト

雪印メグミルク(株)京都工場 池上製造所

京都府南丹市八木町池上古里1番1
TEL. 0771-42-6871

牛乳類・
飲料

雪印メグミルク(株)神戸工場

兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1
TEL. 078-912-2121

●工場・歴史館の見学のご案内

工場・歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・歴史館にお電話でご予約願います。

酪農諮問委員会 委員一覧

任期:2016年4月1日~2018年3月31日

諮問委員	こいずみ つとむ 小泉 恒男	元標茶町農業協同組合 組合長
	くろさわ かんじゅ 黒沢 寛寿	元全国酪農青年女性会議 委員長
	まつお よるじ 松尾 要治	元全国農業協同組合連合会 酪農部長
	すすき のぶひろ 鈴木 宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
	やまか まさみつ 矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科 准教授
	こばやし しんいち 小林 信一	日本大学生物資源科学部 教授



<http://www.meg-snow.com/fun/factory/>

第7期
企業倫理委員会・専門部会委員一覧

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	あなん ひさ 阿南 久	元消費者庁長官	企業倫理委員会委員長 雪印メグミルク(株) 社外取締役
	もりた まさ 森田 満樹	消費生活コンサルタント	消費者関連の有識者
	かわぐち ひろのり 河口 洋徳	経営倫理実践研究センター 専務理事	企業倫理の有識者
	こばやし としお 小林 俊夫	長島・大野・常松法律事務所 弁護士	法律の専門家
	さとう くにひろ 佐藤 邦裕	日本食品衛生協会 技術参与	品質の専門家
	つかはら のりこ 塚原 典子	帝京平成大学 健康メディカル学部 教授	栄養学の有識者
労働組合	よしだ たかし 吉田 尊志	労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	いしだ たかひろ 石田 隆廣	代表取締役副社長	経営全般社長補佐 総務・秘書室・人事 担当
	しろはた かつゆき 城端 克行	取締役執行役員	生産・生産技術 副担当 (生産技術部長委嘱)
	かさまつ こういち 笠松 宏一	取締役執行役員	関係会社統括・機能性 食品事業・CSR 担当

1. 企業倫理委員会・品質部会委員

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	さとう くにひろ 佐藤 邦裕	日本食品衛生協会 技術参与	品質部会長 企業倫理委員会委員 兼任
	もりた まさ 森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会および 表示部会委員兼任
	なかむら まさる 中村 優	品質安全推進共同センター (JASMEQ)顧問	衛生管理の専門家 品質部会委員専任
社内委員	たなか ひろはる 田中 宏治	品質保証部長	品質部会専任

2. 企業倫理委員会・消費者部会委員

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	あなん ひさ 阿南 久	元消費者庁長官	消費者部会長 企業倫理委員会委員長 兼任
社内委員	かさまつ こういち 笠松 宏一	取締役執行役員	企業倫理委員会委員 兼任

3. 企業倫理委員会・表示部会委員

肩書きは2016年4月1日現在

社外委員	もりた まさ 森田 満樹	消費生活コンサルタント	表示部会長 企業倫理委員会および 品質部会委員兼任
	まつざき まさお 松崎 政夫	元日本生活協同組合連合会 商品政策・安全管理担当	商品表示の有識者 表示部会委員専任
社内委員	こにし ひろあき 小西 寛昭	取締役執行役員 研究開発部長 委嘱	表示部会委員専任
	ほくら かずお 保倉 一雄	マーケティング部長	表示部会委員専任
	あだち しん 足立 晋	CSR部長	表示部会委員専任

● 2016年度 企業倫理委員会提言

2016年度のスタートに際し、取締役会から企業倫理委員会への諮問に対し、下記の通り提言いたします。

1. 消費者重視経営に関すること

- (1)重要なステークホルダーである消費者との対話(ダイアログ)の場を充実させましょう。
- (2)引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実にこたえていきましょう。
- (3)商品の表示や広告等では、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断し、消費者に誤認や誤解を与えないよう、正確に表現しましょう。

2. 「食の安全・安心(品質管理)」「企業倫理(コンプライアンス)」の徹底に関すること

- (1)従業員一人ひとりの製造技術、保全技術、衛生管理、検査分析技術のレベルアップのため、工場での後継者育成を見据えた教育・研修を充実させましょう。
- (2)品質トラブルおよび品質苦情を従業員で共有し、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。
- (3)5Sは品質管理の基本であり、5Sガイドラインの内容にそった活動を全員参加で継続して取り組みましょう。
- (4)「雪印メグミルク行動基準」について、全役員・従業員が理解を深め、実践していきましょう。

3. 企業風土及び組織・人材の活性化に関すること

- (1)社内のコミュニケーションを深めるように意識し、工夫しましょう。
- (2)一人ひとりが積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある職場をつくっていきましょう。
- (3)全ての従業員がいきいきと活躍できるような環境を整備し、ダイバーシティを推進していきましょう。

4. その他、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)に関すること

- (1)全役員・従業員が雪印メグミルクグループ企業理念の実現と、CSRの確立に向け、行動していきましょう。

● 企業倫理委員会実施状況

対象期間:2015年4月~2016年3月

1. 定例委員会(12回)

(1) 主な討議事項

- ・2015年度企業倫理委員会提言内容について
- ・「雪印メグミルク株式会社CSR経営に関する従業員アンケート」内容と結果対応について
- ・「雪印メグミルクグループ会社CSR社員アンケート」内容と結果対応について
- ・「雪印メグミルクグループ活動報告書2015」作成について

(2) 主な報告事項

- ・経営概況報告(四半期毎)
- ・CSR委員会実施内容(第13・14回)
- ・商品の自主回収の実施について
- ・「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」の実施内容
- ・第6期お客様モニターの実施、お客様モニター同窓会について
- ・企業倫理委員会提言に対する取組み状況について

(3) 月次定例報告事項

- ・部会実施報告(品質部会、消費者部会、表示部会)
- ・苦情分析結果報告(発生件数、苦情内容、発生原因、他)
- ・広報概況報告(社内外情報発信内容、お客様の声入電概要、マスコミ報道概況、他)
- ・CSRグループ活動実施概要
- ・ホットライン通報状況および対応状況について

PAGE
6、42

2つの事件について

● 雪印乳業食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で発生した停電事故により、製造された脱脂粉乳が汚染され、それを原材料として製造した脱脂粉乳を大阪工場で低脂肪乳等の原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えました。

● 雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を、国産牛肉と偽って申請し、交付金を不正に受給した詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

PAGE
40

企業倫理委員会消費者部会に参加いただいている主な団体一覧

団体名 50音順

関東	関西
主婦連合会	NPO法人 京都消費生活有資格者の会
全国消費者団体連絡会	NPO法人 コンシューマーズ京都(京都消団連)
全国消費生活相談員協会	関西消費者協会
東京消費者団体連絡センター	全大阪消費者団体連絡会
東京都消費者月間実行委員会	なにわの消費者団体連絡会
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	奈良県生活協同組合連合会
日本生活協同組合連合会	日本消費経済新聞社
横浜市消費者団体連絡会	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 西日本支部

人事データ

2016年3月31日現在

	2014年度	2015年度	範囲または時点
社員数(連結)	4,875名	4,823名	連結会社計
社員数(単体)	3,091名	3,005名	雪印メグミルク(株)
男性	2,677名	2,580名	
女性	414名	425名	雪印メグミルク(株) (出向者を含む)
女性管理職	13名	16名	
女性管理職比率	2.0%	2.5%	
平均年齢	39.4歳	39.3歳	雪印メグミルク(株)
平均勤続年数	12.4年	13.0年	雪印メグミルク(株)
障がい者雇用率	1.98%	1.92%	雪印メグミルク(株)
育児休職利用者	29名	30名	2015年度利用者数 雪印メグミルク(株) (出向者を含む)
内育児休職男性社員利用者	4名	14名	
子育て支援休職利用者	35名 (のべ97日)	44名 (のべ127日)	
看護休職制度利用者	80名 (のべ361日)	97名 (のべ468日)	
短時間勤務制度利用者	33名	35名	

雪印メグミルクグループ「CSR活動報告書2016」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「CSR活動報告書2016」をご覧いただき、ありがとうございました。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

本誌をご希望の方は、雪印メグミルク(株)フリーダイヤルへご連絡願います。

- 雪印メグミルク お客様センター
0120-301-369 (9:00~19:00 年中無休)

雪印メグミルク(株)ホームページでも、本報告書を公開いたします。

- CSRの取組み > CSR活動報告書
<http://www.meg-snow.com/csr/report/>

ステークホルダーメッセージ

生産者と消費者を結ぶ架け橋となって!!

早いもので、あれから5年の節目を迎えました。2011年3月11日、あの時、突然、東北を襲った大地震、大津波、そして東京電力福島第一原発事故の追い討ちと、東北太平洋側は地獄絵図を見ているようでした。特に東北の7割の生乳を生産する太平洋側3県の酪農乳業は壊滅状態でした。一時はこの東北から酪農乳業が消えてしまうのではないかとさえ思ったほどです。未だに震災・原発事故の爪痕や放射性物質への対応など復興道半ばですが、当時を振り返れば全国の酪農家を始め乳業各社、関連団体より暖かい支援の手を差しのべていただきました。この紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます。

また、貴社におかれましても、当時、東北産生乳に対する風評被害が、日を追うごとに拡大しているにも関わらず、率先して被災地の生乳を受け入れていただき本当に心強く感じました。残念ながらその風評被害は今も続いています。

一方、2015年度国勢調査では、震災・原発事故の影響もあり、東北地域の総人口は900万人を割るなど、今後も人口の減少傾向が続く中、如何にして東北地域内の牛乳需要を維持していくべきかが課題と考えております。

加えて、昨今の酪農を取り巻く環境は、流通飼料価格の高止まりやTPP合意による先行き不安等の外的圧力、更には乳用牛資源の減少による生産基盤の縮小が加速し生産回復を困難な状況にしております。

現時点でこれらに対応するための即効薬はなかなかありませんが、東北の生乳販売を預かる立場から一言申し上げれば、東北地域内の生乳需要を維持しながら共に発展することを目指し、貴社との信頼関係をこれまで以上に築くことが大切だと考えております。

その一つとして、東北にある貴社の子会社工場を貴社と一緒にあって更に盛り立て、東北地域内の生乳需要の維

持拡大に結び付けることができればと思っております。

貴社はこれからも生産者と消費者を結ぶ架け橋となり、牛乳乳製品の優れた価値の創造によって、今後も酪農・乳業界の発展に寄与されることをご期待申し上げます。私からのメッセージといたします。

東北生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長

伊藤 一成 様



土台固めを進めつつ、未来志向で進みましょう。

以前、2000年に起きた集団食中毒事件に関する研究調査で貴社と関わりました。問題を正面から受け止め、変わろうと努力されている様を目の当たりにし、感銘を受けました。あの事件から得られた教訓やその後の貴社の取り組みは他社や他組織にとっても有益なもので、それらは日本におけるコンプライアンス活動の進展に大きく寄与してきたのではないかと感じています。

そうした土台固めを着実に進められている一方で、貴社は学校や地域社会における食育活動にも積極的で、少子高齢化が進む我が国における健康増進にも貢献していると思います。関東学院大学で

も「関東学院大学ワクワク計画」の一環として、毎年、「チーズセミナー」と「ヨーグルトセミナー」を開いていただいております。申し込みの受付開始とともに定員が埋まるという大人気の講座で、食生活が乱れがちな大学生にとって楽しく学べる良い機会となっています。

私どもの大学も2007年に大きな不祥事を起こしました。失った信頼を取り戻すには長い時間と努力が必要です。しかしながら、物事に誠実に取り組んでいることをきちんと評価して下さる方もいらっしゃると思います。お互いに、油断せず、未来志向で進んでいければと思っております。

関東学院大学 副学長・経済学部教授
経営倫理実践研究センター上席研究員

小山 巖也 様



酪農業の持続発展と消費者の笑顔のために

東京都消費者月間実行委員会
事務局長

中村 紀子 様



わたしは、2年間消費者部会に参加させていただきましたが、牧場や海老名工場見学、官能検査体験、消費者アンケートを基にしたリーフレットの作成など、さまざまな経験と勉強をさせていただきました。消費者として、普段知れないことを多く学ばせていただき、貴重な体験でした。特に、「お客様センター」はとても静かで、消費者からの問い合わせにコミュニケーターがPC入力しながら適切な対応をしています。どんな相談相手もがっかりさせない工夫と気配りにあふれていました。新商品はもちろん全国の販売情報や新しいCMもチェックが必要だということです。窓口対応で企業の姿勢が分かるとも聞いています。信頼に値すると感じました。

東京都消費者月間事業においては、10月に行われた交流フェスタに出展いただき、来場した都民に向けて、牛乳ができるまでをわかりやすく展示説明いただいたことに感謝いたします。身近にある牛乳やバター、チーズがまさに乳牛の命をいただくものであることを多くの人が感じたのではないのでしょうか。これからも安全・安心と品質を守り続ける企業であってほしいと思います。また、日本の酪農業の持続と発展のために、生産者と消費者をつなぐ役割を担っていただきたいです。多くの社員、関係者の声や意見を尊重し、雪印メグミルク(株)の商品を口にするすべての消費者と、生産にかかわる酪農家が笑顔になれるような堅実な経営を今後も望みます。

“思い”を伝えるのは難しい。でも、伝えたい“思い”があるのは嬉しい。

雪印ビーンスターク株式会社
東日本統括支店
首都圏営業所長

山田 美穂子 さん



雪印ビーンスターク(株)は乳児用粉乳を中心に妊婦、乳幼児、そしてシニア・介護用商品の開発から製造・販売を行なう会社です。

私たちは、赤ちゃんを持つお母さんお父さんに「安心して育児をしていただくために、すこしでも母乳に近いミルクをお届けする」という“思い”を持っています。そして、その“思い”の基盤となるのが、雪印乳業時代から半世紀以上にわたって続けている「母乳研究」です。

「母乳は赤ちゃんにとって最良の栄養」これは誰もが認める事実であるとともに、我が子は母乳で育てたいと思っているお母さんが多いのも実際です。

ただし、全てのお母さんが母乳育児を出来るわけではありません。日本の母乳育児率は生後2か月時点で約5割強(乳幼児身体発育調査:厚生労働省より)です。残り5割の赤ちゃんは粉ミルクを

必要としています。

そんな時「母乳があげられなくても、安心して使える粉ミルクがあるから大丈夫」と思っていただけ。それは私たちが永年「母乳研究」を続ける理由であり、目指しているものです。

商品にこめた“思い”をお客様に伝える事は決して簡単ではありませんが、一方で、伝えたい“思い”があるのはとても嬉しいことです。

当社では、昨秋から第3回全国母乳調査を開始しました。全国のお母さん、産婦人科施設様のご協力で実現できる調査です。最新の調査により、母乳の持つ力がさらに解明され、赤ちゃんのすこやかな成長をサポートする商品が生まれることが期待されます。

2016年4月1日から「雪印ビーンスターク(株)」として、伝えたい“思い”はさらに強いものになります。